



NPO☆Kyoken通信

特定非営利活動法人教育研究所発行108号 平成24年9月7日発行

本部 〒233-0013 横浜市港南区丸山台2-26-20 宇奈月自立塾 〒938-0282 富山県黒部市宇奈月温泉5509-16
TEL : 045-848-3761/FAX : 045-848-3742 TEL : 0765-62-9681/ FAX : 0765-62-1120
URL : <http://kyoken.org/> E-mail : contact@kyoken.org

この週末、東京や横浜では 20 日ぶりに雨が降っている。今夏は全国的に猛暑であったが、この雨を境に涼しくなっただけと願っている。

8 月「カナダ教育視察ツアー」で訪れたバンクーバーでも異常気象が起こっていた。初日の夕方、ウエストコーストの事務所で打ち合わせをしていた時、雷音が遠くで響いた。雷音に日本人は慣れているが、カナダ人は慣れていないのか、皆、びっくりした表情をしている。亜寒帯のカナダではめったに雷は落ちないとのこと、「雷なんてめずらしい」と日本で 5 年間、高等学校で英会話講師をしていた。ギャビン先生が (28) が流暢な日本語で話す。そして、「今年の 2 月台風が来て大きな被害が起きた。バンクーバーも熱帯か温帯地方になってしまったね。世界中、異常気象ですね」という。

日本も異常気象だけだと気象だけでなく、政治の世界も異常だと思う。1 時間にひとりの 20 代の若者が自殺している。しかし、未来の国を支える若者が自殺しても、国会やマスコミで話題になることもない。こんな国、世界中探しても日本しかない。若者に希望がある国は発展し、絶望に満ちた国はやがて滅びると私は思っている。

それは、私が生きている間は確認できないかもしれないが、若者意識が希望と絶望に分れる最大の要素は、学校教育と経済状況である。著名な劇作家の山崎正和氏は高学歴低学力の国であると言う。4 年制大学の卒業生の 22% が就職できず、NEET になる。学校教育と就職 (雇用) が結びついていない。学校教育で修得する内容と現実社会が要求する教養は内容や質に大きな隔りがある。結びつくと考えれば、表面知識丸出しのタレントやお笑い芸人らが年柄年中テレビの地上波でやっている「低俗なクイズ番組」ばかりだと、来日する外国人は皆言う、あんな低俗番組が、なぜ続くのか、わからないが、今の日本という国の状況がよくわかるという。

不登校、ひきこもりは受験詰め込み教育の学歴社会の日本や韓国・中国等独特の現象と思っていたが、最近、先進国ではどこの国でもある現象と思うようになって来た。でも、現実には起こっていない。それは、学校教育のシステム、教師の熱意、地域の人々の協力によって予防していることがわかってきた。詳しくは私のブログを読んでほしい。(ム)

http://www.konayami.com/muta/bn2012_08.html

富山県ひきこもり民間支援団体等人材育成支援事業開始のお知らせ

宇奈月自立塾

平成 24 年度の富山県ひきこもり民間支援団体等人材育成支援事業による人材研修を宇奈月自立塾が委託実施することになりました。この事業は富山県における「ひきこもり」の若者の自立支援の施策として、富山県がNPOなどの民間団体に委託して行なう事業です。

事業目的はひきこもり本人や家族などからの相談に対応する担当職員の素質向上を図ることにより、ひきこもり本人や家族への支援を充実することです。またひきこもりの保護者・家族にも呼びかけ当事者の状態と対応を学んでもらうことにあります。

富山県内で「ひきこもり」などの若者の自立支援活動を行なっている、民間団体や行政のスタッフに対して、宇奈月自立塾が、ひきこもりの特性や状況など「宇奈月自立塾」「基金訓練」でのデータなどを紹介し、相談担当職員や保護者・家族も対応の仕方や現状を把握してもらいます。

研修予定は平成 24 年 9 月から平成 25 年 3 月まで 4 回の実施を計画しています。

費用は富山県の助成で運営しますので参加費用は無料です。どなたでも参加できます。

詳しくは、宇奈月自立塾までお問合せください

◎研修（講演）日程（予定）

研修日時	研修内容	場所
平成 24 年 9 月 9 日（日）	ひきこもりの現状	富山県民会館
平成 24 年 11 月 11 日（日）	ひきこもりの状態像の把握	富山県民会館
平成 25 年 1 月 20 日（日）	ひきこもりへの声かけ・タイミング	富山県民会館
平成 25 年 3 月 10 日（日）	社会参加への誘導	富山県民会館

研修（講演）へ参加希望する方は、宇奈月自立塾までご連絡下さい

牟田武生先生のグループカウンセリングは 9 月 15 日（土）11 月 11 日（日）、1 月 20 日（日）、3 月 10 日（日）いずれも、午前 9 時半～11 時半で、場所は宇奈月自立塾研修室です。

グループカウンセリングはどなたでも参加できます。御息子の不登校・ネットゲーム依存・ひきこもり・ニート状態の改善が目的です。費用は 1 回 3000 円です。事前申し込みをしてください。

横浜でも開催計画中です。

申込先 宇奈月自立塾 電話 0765-62-9681 Fax 0765-62-1120

富山県生活保護受給者への社会的居場所作り事業がはじまります

この事業は富山県の生活保護受給者のうち、進学・就職が出来ず自宅にひきこもるなど社会や他人との接点がなくなった者を対象に、企業やNPO法人、地域の人々と協働して、社会経験の機会の提供などを行なうことにより、社会のつながりを再構築し社会的自立を支援することを目的とします。

NPO法人教育研究所宇奈月自立塾は、富山県厚生企画課と今年の4月から事業についての打ち合わせを行なってきましたが、8月から、富山県との事業委託を交わし、具体的な活動を始めました。宇奈月自立塾寮長の牟田光生が、富山県全ての社会福祉事務所を訪問し、生活保護受給者の実態、具体的な支援内容などについて、各事務所のケースワーカーと綿密な打ち合わせを開始しました。今後は生活保護受給者へのケースワーク、就労支援活動などの事業を進めていく予定です。

※ 各事業所、施設に配布するチラシです

社会的居場所づくり事業

私達は貴方の社会参加を支えるパートナーです。
現在の状況から一歩外に踏み出してみませんか？



どんな事をするの？

- ・ 現在の状況の話し相手（軽い相談から誰にも言えない・言いにくい相談も一緒に解決していきましょう）
- ・ ハローワーク等へ行く前のちょっとした相談
- ・ 病院に行く前のちょっとした相談
- ・ ひきこもり状況からの脱却
- ・ 他支援機関への誘導や相談
- ・ 運動などイベントへの参加
- ・ などなど、軽いおしゃべり～様々な相談等なんでも良いので、気軽におしゃべりしましょう、様々な角度から親身になって相談し、希望に応じて社会参加への誘導を致します



*社会参加への一歩や、きっかけになってくれればと考えております。

実施団体

NPO 法人教育研究所

(不登校やニートの社会復帰や社会参加をサポートしている団体です)

所在地 宇奈月自立塾 〒938-0282 富山県黒部市宇奈月温泉 5509-16



平成 23 年度「社会教育活動の実態に関する基本調査事業」

Research Report 2011

【若者の就労支援に資する地域の教育活動等の総合的な展開に関する調査研究報告書】

文部科学省 国立教育政策研究所 社会教育実践研究センター発行

第 3 章 参考となるその他の事例 3 「NPO 法人教育研究所の宇奈月自立塾の取組」

ご覧になりたい方は当研究所のホームページをご覧ください。

http://www.nier.go.jp/jissen/chosa/rejime/2011/01_wakamono/05_chapter3.pdf

平成 24 年度第 1 回目高卒認定試験が終了しました

平成 24 年度の第 1 回、高卒認定試験が、去る 8 月 1 日、2 日に行なわれました。今年度は教育研究所から一人受験しましたが、全科目一回で無事合格いたしました。

教育研究所、宇奈月自立塾では毎年、高卒認定試験対策として「夏期集中講義」を行っており、毎年受験生は全員合格しています。今年度も 7 月から 3 週間の日程で、午後 1 時～午後 4 時までの講義を行い、T 先生の指導の下、無事一回で全科目合格することができました。高卒認定試験の全部合格率は 40% ぐらいですがこの数字は、最終合格率であり、一回の受験で合格する率はおそらく 10% 以下であると考えられます。

今年度は第 2 回試験が 11 月 10 日・11 日に実施される予定です。教育研究所、宇奈月自立塾でも 1 ヶ月前からの集中講義を予定しています。10 月中旬には募集要項ができますのでお問合せ下さい

第 9 回通常総会のご報告

平成 24 年 6 月 16 日（土）に NPO 法人教育研究所丸山台事務所にて第 9 回の通常総会が開催されました。

出席者 理事長牟田武生 宇奈月寮長牟田光生 教育研究所久玉和昭 他 6 名 委任状参加者 46 人 合計 55 名の過半数の参加をもって開催は成立いたしました。（会員数 104 名）

議案としては、昨年度の活動報告、収支報告並びに今年度の事業計画、予算案などについて、午後 10 時から 12 時まで報告を行い、会員の皆様からさまざまな提案をいただき今後の方針について討論いたしました。

また、認定 NPO 法人への設立に向け、定款の一部改定などの了承をもって可決決定いたしました。認定 NPO 設立に向けての活動は会員の皆様から設立寄附を頂戴しておりますが、この総会の決定により正式に認定 NPO P 法人設立に向けて一層の活動を開始していく予定です。

カナダ「教育視察ツアー」 ～不登校・ニートにさせない教育～

牟田 武生

留学生を送り出しているカナダの教育を学ぶため

8月6日から13日まで、カナダ・バンクーバーに、大学教員、研究者、ジャーナリスト、教育関係者、KHJ親の会長等と一緒に教育視察ツアーを行ってきた。主催は当研究所であるが、教育研究所の紹介でカナダ留学した学生を引き受けサポートしてくれているウエスト・コーストインターナショナル（本社 カナダ・バンクーバー 美和社長）の全面的な協力を得て実現できた。また、ビクトリアコロンビア州（BC）のラングレー教育委員会・アポッツフォード教育委員会・コモクスバレー教育委員会・ノースアイランドカレッジ・VCC・BCIT・ランガラカレッジをはじめ多くのセカンダリースクール（中学高等学校）やカレッジには、大変お世話になった。

詳しくは8月21日から牟田武生ブログ

http://www.konayami.com/muta/bn2012_08.html

で掲載をはじめているのでそちらをご覧ください。ここでは、不登校・ひきこもり・ニート等にさせない教育にしばって話す。

1970年代からカナダでは、国からの押し付け教育である国家主義的教育主観色が強い、詰め込み・受験教育等の弊害の多い学校教育を改め、個々子どもや学生の能力や才能を最大限、引き出し伸ばし、コミュニケーション能力や問題解決力を育成していく教育に国家が方向転換を図った。同時に障害を持つ子も持たない子も全ての子どもや若者を包摂するインクルージョン教育を行っている。

多民族国家であり、ファストネーション（先住民）の問題を抱え、彼らの固有の権利とアイデンティティを認め、理解し合う教育としてのリテラシー教育が土台になっている。また、教育の主人公は子どもや若者であるとする民主主義教育が根本にあり、これからの国際社会に通用する次世代を育てる取組もある。

そのために学校教育自体が、子どもの持っている能力や才能を最大限に伸ばし、その能力と適正に応じて、社会に自立できるという目標のために、設計・電気技師などの技術者育成、幼児教育、福祉・介護、調理、美容、自動車整備などの職能教育が、生徒の希望や能力に応じ、普通高校でも徹底して行われている。キャリア教育は小学校から行われ、セカンダリースクールでは、選択科目の履修や人生設計の基本ともいえるプランニングが教科として成立している。

カナダ教育（BC州）のいじめ・不登校・ひきこもり・ニート予防の教育

いじめ問題

幼稚園は5歳から、小学校6～12歳まで（G1～G6）、中学・高校にあたるセカンダリースクールは13～18歳まで（G7～G12）生徒数は1クラス25人以下、Gが低くなるほど、クラス人数は少なくなる。また、セカンダリースクールの場合、学校には校長1人、教頭3人、ユースワーカー（スクールカウンセラー）3～4人、キャリア担当者1～2人配置されている。

特色として、幼児教育はイタリア式の自由保育で自主性や主体性を育成しながら、グループワークによって仲間意識を育てる。この考えを引き継ぎ小学校低学年でも決まった教室はなく、多目的ホールを活用しながら、グループ学習を行って表現力、協調性、思考力、問題解決力等を育てていく。級友は様々な民族の児童がいて、国や地域が違う人が多い。そのため、しっかりと会話しないと意思の疎通が取れない。

セカンダリースクールでも、受験競争によるストレスはなく、たとえ学ぶ教科は増えてもシステムは本質的には変わらない。この仕組みで教育すると、級友に対する優しさや様々な価値感を理解する仲間意識が育つという。「今、日本では、深刻ないじめ自殺の問題が起きている。カナダではいじめがないのか」と聞くと、「ほとんどない、あってもすぐになくなる。これは仲間意識を育てる教育も大きく影響している」という答えが返ってきた。

カナダでも高校生の5%は学校をやめたいと思っている

不登校問題

カナダの高校でも約5%の生徒は学校を止めたいと思っている。特に様々な問題を抱えている先住民の生徒や精神的な問題を抱え込んでいる生徒達である。しかし、カナダの学校には常勤のユースワーカーが3~4名いて精神的なサポートからケースワークをひとり一人の生徒のために行っている。

私達が教育視察を行ったカナダで最も効果をあげているアボツフォード教育委員会では、3人の深刻な問題(性的虐待を逃れるための家出や親の無理解や離婚)を受けて、不登校になりかけた女性の卒業生とお会いした。彼女らはユースワーカーと担当の教師、校長が24時間スクラムを組み生徒を支援し、見事、卒業し、現在は幼稚園の先生やユースワーカーになるためにカレッジで勉強をしているという。その中のひとは、悩みがあれば、いつでも先生達の所に来て相談する。卒業した今でもそうしている。たとえ、来るな!と言われても来るといっていたのが印象的であった。

また、セカンダリースクールの必須教科はG8、G9では、国、数、社、科学、保健、キャリア教育、体育、応用技術、情報通信。G10~12では国、社会および先住民、数、科学、体育、プランニング(科目履修と進路計画)、美術、応用技術などである。全てが単位制高校であるから、選択科目は生徒と先生がやりたいことを決めて、チェス、アイスホッケー、ロックバンド、サーモンの稚魚の育成、ウェブデザインなどの科目もある学校もある。

野外教育活動で有名なコモックスバレーのセカンダリースクールには、5カ月間に渡って北極圏近くまで旅する自然学習もある。また、応用技術の選択科目には、古いスポーツカーの部品を全て取り外し、ボデーを磨き上げ、新しいV8エンジンを乗せ替え、後輪には巨大なタイヤを付け、ストックカーを製造したり、デザインカットやヘヤーカラー等を行う美容にあたる教科もあった。これらの科目は地域の専門家が先生として招聘され、学校の先生と協力して授業を行っている。また、教科によっては資格も取れる。また、教科によっては建築工学やデザインなどは、カレッジから教授陣が指導に来て、カレッジの単位も取れるようになっている。

生徒ひとり一人の興味や能力や才能に応じて柔軟に学習ができるようになっている。生徒にとって魅力ある授業が行われ、不登校の防止に役立っている。生徒からは、なんでこんな役立つとも思えないことを暗記しなくて

はならないのか、といった試験のための学習がなくストレスの軽減になっている。

不登校防止には、カナダの特別支援教育も非常に役立っていると思った。日本では、様々な障害を持っていたり、発達障害等の医師の診断を受け、特別支援教育が必要であると診断を受けた児童生徒が主に特別支援教育を受けている。カナダでは医師の診断だけでなく、児童生徒が望んだり、先生が必要と認めれば、誰でもが特別支援教育を受けることができる。

例えば、親を亡くし、精神的に一時的にショックを受けている子とか、科目によっては苦手意識が強く、クラスの授業についていくことが出来ない教科は、特別支援教育を受けることができる。日本のようにわからない授業を我慢して受けるお客様は存在しない。特別支援教育を必要としている全ての児童生徒がその対象になるという考え方はすばらしいと思った。それらの結果、5%の学校を止めたいと思っていた生徒が0%に近い数字になっているという。

ひきこもらせない教育

前例のアボッツフォードの教育委員会で「すばらしい対応をしても、不登校になり、もし、ひきこもりになってしまったらどうするのか」と少々意地が悪いが、カナダの教育首相賞を授与しているマッド先生に尋ねた。

ユースワーカーは日本のスクールカウンセラーのように相談だけをしているわけではない。ケースワークもしているので本人の状況だけでなく、家庭状況や関わる問題を全て把握している。その情報を教育委員会の担当者は全て理解している。担当者は、同時に、全てのケースワーカーの特性や学校の特色を理解しているので、その生徒の家にユースワーカー、教育委員会の担当者が一緒に行き、その生徒のニーズに応じて適切な方法で学校に誘導するのでひきこもりは起こらないという。

若い人の不登校やひきこもりに対する精神的な問題の対処法として、日本ではすぐ精神科や心療内科への受診を勧め、投薬によって反って長引くケースが多い。これが長期にわたるひきこもりの遠因になっている場合が多い。カナダでは若い人の場合は、陽性の統合失調症のように、明らかな精神症状（妄想、幻覚、幻聴等）がある場合を除き、まずはカウンセリングをしてストレス要因を突き止め、ケースワークを行い、ストレスの少ない精神環境に移し、症状を診るといった精神療法を採る場合が多い。それで投薬せずに7割近くはそれで治るという。

ニートにさせない教育

カナダの高校は、日本のように、たとえ四則混合計算が出来なくても高校が卒業を認めれば、卒業できるということはない。主要科目に関しては、国（州）の統一試験があり、一定の成績を修めない限り、卒業はできない。

卒業できない生徒は特別支援教育の対象になり、社会に出て行くための学力や能力を学校が責任を持って付けさせ、再び、統一試験を受けて合格しなければならない。また、普通高校でも、各種の資格が取れるようになっており、キャリア教育と誰でもがしっかりと学ぶことが出来るカレッジが充実していて、町にあるほとんど全ての職種の職業訓練が専門家によって可能になっている。カレッジには最先端の技術を教えるために多くの企業が社会貢献事業として、資金設備、人材（指導者）を提供している。

理想的な学校教育であるが、お金が掛かるのでしょうか？

カナダ BC 州の消費税は食料品には税が掛からないが、18%と確かに税金が高い。しかし、カナダ国民であれば、教育費は公立校無料である。小学校には幼稚園・私立学校があるが、セカンダリースクール以上は公立（州立）の学校がほとんどである。財政的に教育費が占める割合は高い福祉教育国家である。しかし、地域の人的支援や企業の寄付でも支えられている。どこのセカンダリースクールもすばらしい体育館やホールを持っている。体育館やホールのロビーの壁には、一流企業の旗やロゴマークが入っている看板が掲げられている。莫大な資金を教育、地域、市民のために、大企業が寄付している。「若い人材が次世代の国を支える」という考えが徹底している。

理想の教育環境だが・・・

PISA 学力も大学の国際評価もカナダは日本より高い。このような理想の教育が実現したのは、70 年代の詰め込み受験教育を廃して 40 年経って漸く実現できたという。教育を変えるには、国民の教育意識改革、新しい教育を受けた人が先生になるまでの多くの時間がかかる。しかし、教育は国家の土台である。

カナダも G8 参加国（主要国参加国）である。先進国の中で、時代遅れの受験教育を行っている国は日本だけである。しかし、PISA の学力一位のフィンランドを見習うよりも国際教育を行い、福祉国家のカナダの教育を日本の教育界は見習った方がよい。その方が、日本には馴染みやすいのではないか。

第 22 回問題行動研修会開催の報告

7 月 26 日（木）27 日（金）、国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、第 22 回問題行動研修会を開催いたしました。平成 23 年度は、東日本大震災の影響で中止となり、1 年ぶりの開催でした。

今回講演を頂いた先生方は、行政（内閣府・文部科学省・厚生労働省）、施策に係る大学研究者、教育関係者、ジャーナリストとさまざまな方面から、現在の日本の教育が抱えている問題点を示唆していただき、参加者は 51 名と、例年に比べて非常に少人数での開催となりましたが、講義、ワークショップ、シンポジウムと充実した内容に参加された先生方の終了後のアンケート報告によると、大変満足のいく研修会でした。参加者の皆さま、ボランティアの方々ありがとうございました。

8 月 6 日～14 日 「カナダ教育視察ツアー」は参加者の皆さま大感激して頂き大成功でした。参加者で日本最大のひきこもりの親の会の会長からは、タイの語学学校と自立にむかっただけの就労支援の視察ツアーも計画して欲しいと成田に帰国する前から要望がありました。不登校やひきこもりの支援がなく、皆、葉漬けにして医者やカウンセラーだけが儲け本質的な解決ができない国、若者という弱者に冷たい国、日本を離れて国際人になりましょう！

来年度からは、新たな企画「日本の教育を変える」という新しいテーマで「問題行動研修会」を予定しています。ご期待下さい。



黒部のおいし〜いお米をいかがですか？

ご自宅用や親戚や近所の方へのご贈答用に、黒部の美味しいお米はいかがでしょう？
購入制限はなく、好きなだけ購入できます。

ご注文はFax、電話、メールにて受け付けています。ご希望の方はいずれかの注文方法で宇奈月自立塾までご連絡ください。

ご注文お待ちしております♪

黒部市でとれる「黒部米」コシヒカリは特許庁の「地域団体商標」いわゆる地域ブランドに「米」として全国ではじめて認定されたお米です。

	注文票	
5* _□	2500円	×

ご自宅までの送料…(全国一律) 1000円(30*_□までこの代金です)
お歳暮、お中元、贈り物にも最適です。
こちらをご記入下さい(必須)

〒

送付先住所

電話番号

氏名

メールアドレス

こちらを 0765-62-1120 まで FAX をお願い致します。

なお TEL 番は 0765-62-9681 です。メールでのご注文は m_muta@kyoken.org です

FAX 送信後ご入金を

北陸銀行 宇奈月支店 普通 口座番号 5014010 特定非営利活動法人教育研究所
迄お願いいたします。入金確認後3~4日で届けさせていただきます。

9月から12月の主なスケジュール 飛び入り参加大歓迎！行事によっては費用がかかります。

- ・9月10日～16日 越中富山おわら節体験 宇奈月温泉街にて「おわら節」をマスターしよう！
- ・9月22.23日 湯の街ふれあい音楽祭モーツァルト@宇奈月温泉街中いたるところでコンサートが開催されます。昨年は330名の演奏家が集まり街を盛り上げました！皆で聴きに行きましょう。
- ・9月28日 称名滝遠足 350Mという日本一の落差を誇る四段構成の滝である称名滝
- ・10月上旬 僧ヶ岳登山 高山植物が一面に生え頂上からは北アルプスの絶景が見れる
- ・10月17日 ニート甲子園（ソフトボール大会）IN信州上田 ソフトボールの秋です！
- ・10月下旬 魚津歴史発見街のサイクリング 魚津の歴史や海を眺めながらのサイクリングは気持ち良い～運が良ければ蟹気楼も見られるかも！？
- ・11月上旬 黒部峡谷紅葉の山歩き 日本一の紅葉です！艶やかさは目を見張るばかり！
- ・11月下旬 金澤兼六園遠足 言わずと知れた兼六園百万石が偲べれます
- ・12月中旬 大掃除&忘年会
- ・12月下旬 冬休み帰省

様々な行事と体験宿泊ができます。是非、この機会に参加してください。

なお、横浜から車が出る月もあります。

行き 9月14日（金）午前9時半出発 帰り、9月19日（水）

行き 11月9日（金）午前9時半出発 帰り、9月19日（水）

費用 教育研究所事務所から宇奈月自立塾まで5000円（要予約）上記以外でも臨時に出ることもあります。お問い合わせください。 045-848-3761（NPO法人教育研究所横浜事務所）

編集後記

日本の教育は、「先生、生徒のめしの種」と言われた。これは戦後民主主義になっても、延々と続いている。教育は字のごとく、お上から教え、育てるものであって、上意下達（じょういかたつ）のものである。儒教的精神と封建主義の賜物である。それが、今日まで影を曳いている。その点、Educationは引き+出すという意味がある。子どもや若者の持っている能力や才能を引き+出すことである。だから、教育とEducationの本質的な意味が違う。40年間、私達も「教育」という看板を使ってきたが、「引き+出す研究所」に名前を変えるべきではないかと思ったが、振り込み詐欺を研究しているのかと誤解されるので、一考が必要である。

この夏は新たな出会いが多かった。日本最大の不登校のアウトリーチ事業「東京家学と関西家学」をやっている青年平栗氏、古くからの知人だったKHJ親の会長池田佳世先生、高認のJ-Web社長の植田氏、幼児・英語教育のエキスパート、マスマーオマンデイ先生、サーモンフレイザー大学の名誉教授Bruce K. Alexander先生そして、BC州の先生方、多くの出会いが、明日の活力になり、子どもや若者の支援活動の源になると思っている。

不登校という教育社会問題を金で卒業や単位を売り物にするサポート校は違法行為であるとし、文部科学省は、今後指導に入るとしたことを8月19日朝刊全国版で朝日新聞は伝えている。また、文部科学省の担当官は「脱法行為であるうえに、教育の質も低く、高卒資格を売り物にしたビジネスになっている」と指摘する。